

源氏物語の地学
石山寺硅灰石（けいかいせき）

南 寿宏

0 はじめに

NHK の今年の大河ドラマは『光る君へ』。主人公は紫式部である。

紫式部に所縁のある寺は、京都の蘆山寺と大津の石山寺である。

1 蘆山寺(京都市上京区寺町通り広小路上る北之辺町) 京都市バス府立病院前徒歩 5 分



蘆山寺 源氏庭
2024/3/22 取材 以下同じ



元三大師

蘆山寺は紫式部邸跡(諸説あり)で、桔梗で有名な庭があり、源氏庭と呼ばれる(上左図)。

桔梗は明智光秀の家紋であり、蘆山寺に光秀関連のものがあることは有名である。詳細は各自でお調べ願う。

上左図の華麗なる紫色の桔梗を見よ！

なに、見えぬちゃと？

であるからして、お主は修業が足りぬのぢや。心の眼で見るが好い！

蘆山寺はまた、元三大師の寺である。上右図が大師の像である。この大師の像を見たことがある人は多かろう。像をそのまま載せることは畏れ多いので、編集して載せる。

紫式部の歌は、源氏物語に多数あり、蘆山寺の庭にも、結晶片岩に刻まれた歌碑がある。

めぐり逢ひて 見しやそれとも わかぬ間に 雲がくれにし 夜半の月かな

百人一首 57 紫式部

ある日紫式部は幼友達と偶然再会した。でも、その人かどうか確認できないまま、その人は帰っていった。そのことを雲間に隠れる月に託して詠んだ歌である。



紫式部歌碑(蘆山寺内)
岩種は緑色片岩と思われる。

2 関蟬丸(せきせみまる)神社(大津市逢坂一丁目) 京阪京津線大谷駅徒歩 3 分

この神社は、紫式部のライバル、清少納言に関連する。百人一首には清少納言の「よに逢坂の 関はゆるさじ」の歌がある。

百人一首	夜をこめて 鳥の空音は はかるとも よに逢坂の 関はゆるさじ
拙訳	夜も明けないのに 鶏の鳴き声を 真似しても この逢坂の 関は決して開きませんよ
史記	孟嘗君は秦の追跡から逃げ、函谷関の関所に至った。まだ夜明け前で関所は閉まっていた。孟嘗君は部下に命じて鶏の鳴き声を真似させたところ、関所の番人は夜明けと勘違いし、関を開けた。そこで孟嘗君は関を通り、脱出した。

右図は神社入り口にある車石。車石とは、荷車で山道を越えるとき、車輪がスムーズに回るように、花崗岩の岩板を敷き、窪みをつけたものである。

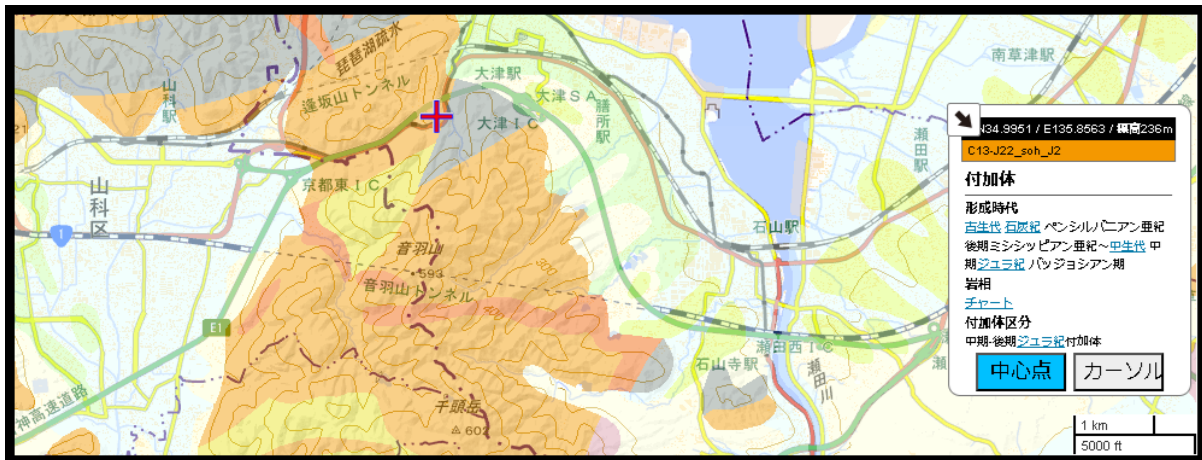
さて、紫式部は自身の日記で清少納言のことを次のように評している。

紫式部日記	清少納言こそ、しなり顔にいみじうはべりける人。さばかりさかしだち、真名書き散らしてはべるほども、よく見れば、まだいと足らぬこと多かり。
拙訳	清少納言こそは得意げな顔をして、文に漢字を使いまくる人。でも、よくよく見れば、間違いだらけ。あほちゃうか。



車石
関蟬丸神社内

清少納言の父親は、梨壺の五人の一人で、歌人としても名高い清原元輔。しかし彼女は、いくらせがまれても決して歌を詠まなかった。元輔の娘がこの程度の歌しか詠めぬのか、と笑われるのは彼女のプライドが許さなかったのであろう。先ほどの「よに逢坂の」の歌は例外中の例外。「光る君へ第六回『二人の才女』」では清少納言役のファーストサマーウイカさんが実に高慢な女性を演じていた。



逢坂山地質図(産総研シームレス地質図を編集)

逢坂山は図中+印

逢坂山は、上地質図により、中期・後期ジュラ紀付加体のチャートから、すぐ南の岩体は中期・後期ジュラ紀付加体の混在岩でできている。この地質体は、石山寺を構成している岩体と同じである。石山寺の岩体が田上花崗岩による接触変成作用を受け、珪灰石化していることは、次項で述べる。

ここで一息 18 禁だよ

下左図は、最近発売された林望氏の好著『枕草子の楽しみかた』である。教科書には絶対に採用されない文が満載で、それがやたら面白い。詳しくは購入のうえ（立ち読みはやめ給え）、愛読されたいが、その一例を挙げる。

「孫のいる男女の昼寝」というものがある。これを彼女は、清少納言は「すさまじ（がっかりだ）」と感じる。一読、じいじ、ばあばが昼ひなか、こっくり舟をこぐことを想像するが、そうではない。当時は早婚で、このじいじ、ばあばは40歳前後で、まだまだ現役世代。そういう二人がまっ昼間からお盛んで、という状況のようである。

枕草子の『昼寝』というワードにはご注意ください。

なお、枕草子の中のこの種の話は清少納言自身の体験だというのが、林氏のお考えである。

林氏は『枕草子の楽しみかた』の前に『源氏物語の楽しみかた』（下中図）を刊行している。源氏物語も、内容面では、ずいぶんな著作であるが、枕草子ほど露骨ではないためか、教科書にそれなりの描写はある。

源氏物語には、与謝野晶子、谷崎潤一郎等、名立たる文筆家が訳している。それらは、単なる古文の現代語訳ではなく、現代文学作品としてその価値を有する作品として、名高い。一方、日本文学研究家のアーサー・ウェイリーの英訳本（本号 p. 14）およびその佐復秀樹日本語訳という、『逆輸入本』とでもいうべき不可思議な作品もある（下右図）。前述林氏にも日本語訳があり、祥伝社から文庫本化されている。

それでは、原文、ウェイリー英訳本、佐復日本語訳本、林訳本の順に紹介する。編集後記もご覧いただければうれしい。

源氏物語	男君はとく起きたまひて、女君はさらに起きたまはぬ朝あり。
英訳本	There came a morning when the gentleman was already up and about, but the young lady was still lying abed.
佐復訳本	そして、紳士の方はもうすでに寢床を離れているが、若い淑女の方はまだ床に横たわっているという朝がやってきた。
林訳本	男君が早く起き出してきたのに、女君は、いつまでも寢床から出てこない、そういう朝があった。

ここで、男君は光の君、女君は紫の上である。そのあとの状況は、下中図『源氏物語の楽しみかた』に詳しい。



林望著
「枕草子の楽しみかた」



林望著
「源氏物語の楽しみかた」



佐復秀樹日本語訳
「ウェイリー版源氏物語」

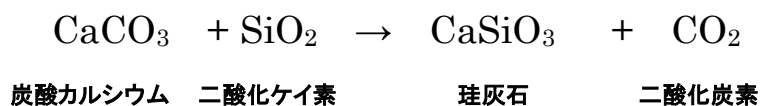
3 石山寺(大津市石山寺一丁目) 京阪石山坂本線石山寺駅徒歩 10 分

石山寺の本堂横には、紫式部が源氏物語を執筆したとされる、源氏の間がある（写真は本号表紙）。



石山寺 珪灰石露頭写真

石山寺境内には、国指定文化財天然記念物の珪灰石がある。天然記念物の指定は 1922 年で、2007 年には、「日本の地質百選」にも選ばれている。地層としての原岩は石灰岩・チャート互層であり、厚さ 10～100 cm の灰白色石灰岩と厚さ 5～30 cm の灰色チャートの互層が、田上花崗岩体による接触変成作用によって珪灰石ないし大理石と珪岩の互層となっている。接触変成作用の化学反応式は次のとおりである。



岩体前に説明板があるので、次ページに載せる。光の反射で見づらいので、その下に浄書して併載する。

国指定文化財

天然記念物

石山寺珪灰石

（大津市石山寺一丁目）

石灰岩が花崗岩による熱変成作用を受けると多くの場合、大理石となりますが、一部に珪灰石となるものがあります。石山寺のように雄大な珪灰石は珍しいものです。

本堂横の中庭正面にある大理石と珪灰石で出来た岩のかたまりの中には、五ミリメートルから二〇ミリメートル大の束状の珪灰石の結晶がみられます。境内のいたるところに露出していることから、石山寺の名前の由来となり、本堂厨子内の勅封本尊如意輪観音像もこの珪灰石上に鎮座しています。

大正十一年（一九二二）三月に国の天然記念物に指定されました。

令和三年（二〇二一）三月

大津市教育委員会



National Designated Cultural Property
Natural Monument
Ishiyamadera Temple, Wollastonite

国指定文化財

天然記念物

石山寺珪灰石

（大津市石山寺一丁目）

石灰岩が花崗岩による熱変成作用を受けると多くの場合、大理石となりますが、一部に珪灰石となるものがあります。石山寺のように雄大な珪灰石は珍しいものです。

本堂横の中庭正面にある大理石と珪灰石で出来た岩のかたまりの中には、五ミリメートルから二〇ミリメートル大の束状の珪灰石の結晶がみられます。境内のいたるところに露出していることから、石山寺の名前の由来となり、本堂厨子内の勅封本尊如意輪観音像もこの珪灰石上に鎮座しています。

大正十一年（一九二二）三月に国の天然記念物に指定されました。

令和三年（二〇二一）三月

大津市教育委員会



National Designated Cultural Property
Natural Monument
Ishiyamadera Temple, Wollastonite

上：石山寺内 珪灰石説明板 下：説明板浄書